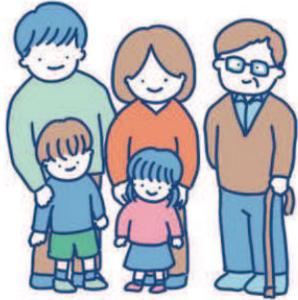


柱1 災害を自分事化する

【目指すべき姿】

地域の一人ひとりが、自然災害を正しく理解し、自分の命は自分で守る意識を高め、主体的に防災に取り組む

主体：地域住民



取組みの背景・意義等

【背景】

- 災害は発生形態も頻度も地域差が大きく、多くの住民は自分の地域でどのような災害が起こりうるか十分に理解できていない状況にあります。また、防災が生活の中で身近に感じられにくく、訓練への参加意識も低くなりがちです。
- 大規模災害時には、行政の支援が遅れるケースがあり、迅速な支援には限界があります。

【意義等】

- 住民一人ひとりが自分の安全を守る「自助」の意識を持ち、地域の災害リスクを理解し、主体的に防災に取り組むことが大切です。

主な役割と取組み例

【主な役割】

○自らの命を守るための、地域の災害リスクを理解し、主体的に防災学習に取り組む

- 地域住民には、災害は“いつか起きるもの”ではなく“今ここで起きるかもしれない”と考え、災害から自らの命を守るため、自分自身の判断と日頃の備えによる「自助」を実践するという重要な役割があります。

【取組み例】

○事前の備え（防災学習を実践につなげる取組）

- 自分の地域の災害リスクの理解
- 学んだ内容をもとに、家庭内の防災点検や備蓄（ローリングストック）を確認
- 家具の転倒防止など、自宅の安全対策を“なぜ必要か”を理解した上で実施
- 災害発生時の避難経路や避難先を、地域の危険個所と合わせて把握
- 安否確認の方法や連絡が取れない場合の集合場所の確認 など

○主体的な防災学習

- 各種防災訓練やセミナー等への参加
- 家族がそれぞれの活動で得た知識を家庭内で共有して行動に移す など

取組みの参考となる事例

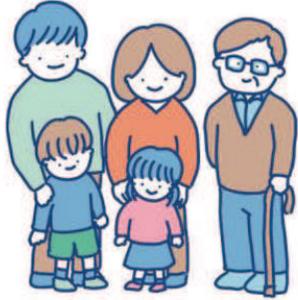
- ◆ 多様な住民が参加しやすい地域防災研修会
..... P41
- ◆ 防災フェスティバル
..... P43
- ◆ 子どもたちのサマーキャンプにおける防災学習
..... P45

柱2 地域の防災活動の実効性をあげる

【目指すべき姿】

地域に属する一人ひとりの防災意識の向上を図り、地域内の連携を促進し、地域住民が互いに助け合い、自分たちの地域は自分で守る

主体：地域住民



取組みの背景・意義等

【背景】

- 地域コミュニティの希薄化により、隣近所つながりが弱まり、災害時に声かけや安否確認ができない状況が増えています。また、災害発生直後は、行政の支援がすぐには届かず、この間に住民同士の声かけや安否確認、避難支援が行われない場合、救助や避難が遅れ、命に関わる被害が拡大する恐れがあります。

【意義等】

- 住民が防災学習を通じて、声かけ・安否確認・避難支援などの基本行動を身に付け、地域の一員として地域防災活動に主体的に関わることが大切です。

主な役割と取組み例

【主な役割】

○地域の一員として、地域の防災活動に参加

- 地域住民一人ひとりが防災に関わることで、自らの命を守る「自助」の力と地域における共助の力が着実に高まります。日頃から災害を自分事として捉え、地域とつながりを深めることが、災害時の的確な対応につながります。
- また地域の防災に関する話し合いなどに参加し、地域の課題や情報を共有する等、日常的な関わりが、地域住民同士のつながりを強め、地域の防災力を高めます。

【取組み例】

○地域防災訓練等への参加

- 地域が行う講習会、防災訓練等への参加、避難経路の安全確認の実施
- 避難所運営の一員となる意識での避難所設置訓練への参加
- 自主防災組織への参画
- 隣近所への声かけ運動等、地域で決められた安否確認ルールを理解し訓練と発災時の実践に繋げる など

○各主体による地域防災の取組みへの協力

- 学校が行う防災学習への協力 など

取組みの参考となる事例

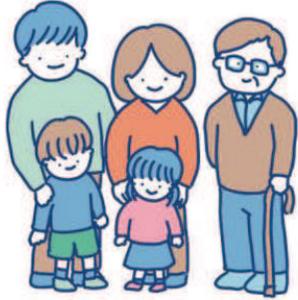
- ◆ 複合的なハザードを踏まえた学校での緊急時引き渡し・留め置き訓練（地震災害）
..... P49
- ◆ しばはし防災ネットワークによる地域の防災力向上
..... P53

柱3 幅広い担い手を育成する

【目指すべき姿】

地域防災の中核となり、積極的かつ主導的に活動できる専門的な知識と技能をもったリーダーや担い手を育成する

主体：地域住民



取組みの背景・意義等

【背景】

- 地域防災活動では、少子高齢化や人口減少等により、地域防災活動に参画する住民が十分に確保できていない状況が見られます。地域防災を担う人材が年々不足する中、幅広い世代が防災活動に参加し、将来を見据えた担い手の育成を進める必要性が高まっています。

【意義等】

- 地域の将来のために地域の防災力を高めていくには、幅広い世代が防災活動に触れ、将来の地域防災を担う人材として育てていくような機会を設けていくことが大切です。

主な役割と取組み例

【主な役割】

○地域の一員として、防災の担い手になるための知識と技能を身に付ける

- 地域住民は、将来にわたって地域の防災を支えるための知識や技能を主体的に学び、身につけることが大切です。防災の基本的な知識を基に、社会情勢や災害リスクの変化に合わせて知識や技能を継続的に向上していくことで、多様な防災の担い手が育ち、地域防災力の向上につながります。

【取組み例】

○防災知識の習得と更なる向上

- 県や市町村が実施するリーダー研修会等への参加
- 最新の災害リスクや防災知識について学習及び家庭や近隣との共有 など

○防災士資格の取得等による基礎力向上

- 防災士の取得
- 各種防災に関する検定の活用 など

取組みの参考となる事例

- ◆ 山形市自主防災リーダー・アドバイザー（YVL）登録制度
..... P57
- ◆ 女性防災リーダー育成講座・酒田防災コーディネーター事業
..... P59
- ◆ 幼保から中学生まで『切れ目のない防災教育』
..... P65
- ◆ 中山町全世代防災教育普及事業
..... P67